

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

グリップを兼ねる本体ケース（１）の一端に整形ヘッド（２）を有し、整形ヘッド（２）にまつ毛を加熱するヒーター（８）が配置してある加熱型のまつ毛整形具であって、整形ヘッド（２）の突端に端部側整形部（１２）が設けられており、端部側整形部（１２）の突端に端部カール面（２１）と、まつ毛を梳き流す端部コーム（２２）とが設けられており、端部側整形部（１２）に、まつ毛に付着したマスカラを梳き取る端部マスカラコーム（２３）が設けてあることを特徴とするまつ毛整形具。

【請求項 2】

端部マスカラコーム（２３）の櫛歯（３４）の配列方向と、端部コーム（２２）の櫛歯（３２）の配列方向とを異ならせて、端部マスカラコーム（２３）の梳き流し方向が、端部コーム（２２）の梳き流し方向と直交する向きに設定してある請求項 1 に記載のまつ毛整形具。

【請求項 3】

端部マスカラコーム（２３）の櫛歯列を、端部コーム（２２）の櫛歯（３２）と平行に設けて、端部マスカラコーム（２３）が端部コーム（２２）を兼ねている請求項 1 または 2 に記載のまつ毛整形具。

【請求項 4】

端部マスカラコーム（２３）が、端部カール面（２１）の端部に配置してある請求項 1 から 3 のいずれかひとつに記載のまつ毛整形具。

【請求項 5】

端部マスカラコーム（２３）の端部カール面（２１）からの突出寸法（H 3）が、端部コーム（２２）の端部カール面（２１）からの突出寸法（H 4）と同じか、これより大きく設定してある請求項 3 または 4 に記載のまつ毛整形具。

【請求項 6】

端部コーム（２２）を構成する櫛歯（３２）の歯幅（W 2）が、端部マスカラコーム（２３）の櫛歯（３４）の歯幅（W 1）に比べて大きく設定されており、

端部コーム（２２）が、端部マスカラコーム（２３）の突き刺しを規制する防護体を兼ねている請求項 5 に記載のまつ毛整形具。

【請求項 7】

端部マスカラコーム（２３）を構成する櫛歯（３４）の歯幅（W 1）および隣接ピッチ（P 1）が、端部コーム（２２）を構成する櫛歯（３２）の歯幅（W 2）および隣接ピッチ（P 2）より小さく設定してある請求項 5 または 6 に記載のまつ毛整形具。

【請求項 8】

端部側整形部（１２）の周側面（１８ a）で、端部マスカラコーム（２３）の基端部分に温度表示体（３８）が設けてある請求項 2 から 7 のいずれかひとつに記載のまつ毛整形具。

【請求項 9】

整形ヘッド（２）の周面一側に、整形ヘッド（２）の中央へ向かって凹む段落ち面（１５）が設けられており、

前記段落ち面（１５）に、まつ毛に付着したマスカラを梳き流す側部マスカラコーム（１６）が設けてある請求項 1 から 8 のいずれかひとつに記載のまつ毛整形具。

【請求項 10】

前記段落ち面（１５）の下部と本体ケース（１）との間に、本体ケース（１）の周面から段落ち面（１５）へ向かって下り傾斜する逃げ面（３９）が形成してある請求項 9 に記載のまつ毛整形具。

【請求項 11】

側部マスカラコーム（１６）が、前記段落ち面（１５）の幅方向中央に直線列状に設けてある請求項 9 または 10 に記載のまつ毛整形具。

10

20

30

40

50

【請求項 12】

端部側整形部（12）に、前記段落ち面（15）の上部に連続する周側面（18a）が形成されており、

側部マスカラコーム（16）の前記段落ち面（15）からの突出寸法（H1）が、前記周側面（18a）の前記段落ち面（15）からの突出寸法（H5）より大きく設定されており、

前記周側面（18a）が、側部マスカラコーム（16）の突き刺しを規制する防護体を兼ねている請求項9から11のいずれかひとつに記載のまつ毛整形具。

【請求項 13】

側部マスカラコーム（16）の櫛歯列の長さ（L3）が、端部マスカラコーム（23）の櫛歯列の長さ（L4）より大きく設定してある請求項9から12のいずれかひとつに記載のまつ毛整形具。

【請求項 14】

側部マスカラコーム（16）の櫛歯（19）の突出寸法（H1）が、端部マスカラコーム（23）の櫛歯（34）の突出寸法（H3）より大きく設定してある請求項9から13のいずれかひとつに記載のまつ毛整形具。

【請求項 15】

端部側整形部（12）の周側面（18a）が平坦に形成されており、

前記周側面（18a）に連続して端部マスカラコーム（23）が上向きに突設されており、

前記周側面（18a）と端部マスカラコーム（23）とが、側部マスカラコーム（16）の突き刺しを規制する防護体を兼ねている請求項12から14のいずれかひとつに記載のまつ毛整形具。

【請求項 16】

整形ヘッド（2）の周面一侧に側部マスカラコーム（16）が、周面他側に側部側整形部（11）が設けてある請求項9から15のいずれかひとつに記載のまつ毛整形具。

【請求項 17】

側部マスカラコーム（16）の櫛歯（19）の突出寸法（H1）が、側部側整形部（11）に設けた側部コーム（14）の櫛歯（30）の突出寸法（H2）より大きく設定してある請求項9から16のいずれかひとつに記載のまつ毛整形具。

【請求項 18】

側部マスカラコーム（16）の櫛歯（19）の突出寸法（H1）が、側部コーム（14）の櫛歯（30）の突出寸法（H2）の2倍を超える値に設定してある請求項17に記載のまつ毛整形具。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、まつ毛に熱を加えながら整形する加熱型のまつ毛整形具、なかでも整形ヘッドにマスカラコームを備えているまつ毛整形具に関する。

【背景技術】

【0002】

本出願人は、この種のまつ毛整形具を先に提案している（特許文献1）。そこでは、整形ヘッドの周面一侧と突端面のそれぞれに、第1整形面と第2整形面を設け、各整形面にまつ毛整形用の櫛歯を設けている。第1整形面と第2整形面の内部には、ヒーターが配置してあり、このヒーターの熱でまつ毛を加熱しながら各整形面で押し上げてカールすることができる。第1整形面は、まつ毛の湾曲中央部分に位置する長くて密度の高いまつ毛をカールするために設けてあり、突端の第2整形面は、目頭側や目尻側に生えている短くて密度が低いまつ毛をカールするために設けてある。多くの場合、まつ毛整形具でカールした後のまつ毛にはマスカラ液を塗布して、まつ毛を濃く長く見せ、さらにカール形状を強調する。

10

20

30

40

50

【先行技術文献】

【特許文献】

【0003】

【特許文献1】特開2010-148982号公報（段落段落0035、図12）

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0004】

まつ毛を化粧する際には、マスカラコームでまつ毛を梳き流す前段作業と、まつ毛整形具でまつ毛をカールする作業と、マスカラブラシでマスカラをまつ毛に塗布する作業と、マスカラの塊（以下、ダマと言う。）をマスカラコームで除去する作業などを行う。特許文献1のまつ毛整形具によれば、カールしにくい目頭側や目尻側のまつ毛をも自然な感じにカールできる。しかし、一連の作業を行うのにマスカラコームと、まつ毛整形具と、マスカラブラシを使い分けながら繊細な作業を行う必要があり、全体として作業が煩雑で、まつ毛の化粧に多くの手間が掛かってしまう。

10

【0005】

例えば、特許文献1のまつ毛整形具において、第1整形面と第2整形面に設けた櫛歯でダマの除去を行うと、マスカラコームを使用することなくまつ毛を化粧できる。ところが、ヒーターの外面に櫛歯が配置してあるので、櫛歯を利用してダマを梳き取ったとしても、梳き取られたダマがヒーターの表面に付着し堆積するため、その除去に多くに手間が掛かってしまう点で実用性に問題がある。

20

【0006】

本発明の目的は、まつ毛を化粧する過程で、まつ毛の前段梳き流し作業と、まつ毛のカールと、ダマの除去作業を行なうことができる、より多くの機能を発揮できるまつ毛整形具を提供することにある。

本発明の目的は、目頭側や目尻側におけるまつ毛の前段梳き流し作業と、ダマの除去とを適確に行なうことができ、したがって、まつ毛の化粧をより短い時間で行えるまつ毛整形具を提供することにある。

【課題を解決するための手段】

【0007】

本発明に係るまつ毛整形具は、グリップを兼ねる本体ケース1の一端に整形ヘッド2を有し、整形ヘッド2にまつ毛を加熱するヒーター8が配置してある加熱型のまつ毛整形具を対象とする。整形ヘッド2の突端に端部側整形部12を設ける。図1に示すように、端部側整形部12の突端に端部カール面21と、まつ毛を梳き流す端部コーム22を設ける。さらに、端部側整形部12に、まつ毛に付着したマスカラを梳き取る端部マスカラコーム23を設けることを特徴とする。

30

【0008】

図4に示すように、端部マスカラコーム23の櫛歯34の配列方向と、端部コーム22の櫛歯32の配列方向とを異ならせて、端部マスカラコーム23の梳き流し方向を、端部コーム22の梳き流し方向と直交する向きに設定する。

【0009】

端部マスカラコーム23の櫛歯列を、端部コーム22の櫛歯32と平行に設けて、端部マスカラコーム23が端部コーム22を兼ねるようにする。

40

【0010】

端部マスカラコーム23は、端部カール面21の端部に配置する。

【0011】

図5に示すように、端部マスカラコーム23の端部カール面21からの突出寸法H3を、端部コーム22の端部カール面21からの突出寸法H4と同じか、これより大きく設定する。

【0012】

端部コーム22を構成する櫛歯32の歯幅W2を、端部マスカラコーム23の櫛歯34

50

の歯幅W1に比べて大きく設定して、端部コーム22が、端部マスカラコーム23の突き刺しを規制する防護体を兼ねるようにする。

【0013】

端部マスカラコーム23を構成する櫛歯34の歯幅W1および隣接ピッチP1を、端部コーム22を構成する櫛歯32の歯幅W2および隣接ピッチP2より小さく設定する。

【0014】

図6に示すように、端部側整形部12の周側面18aで、端部マスカラコーム23の基端部分に温度表示体38を設ける。

【0015】

整形ヘッド2の周面一侧に、整形ヘッド2の中央へ向かって凹む段落ち面15を設け、この段落ち面15に、まつ毛に付着したマスカラを梳き流す側部マスカラコーム16を設ける(図2参照)。

10

【0016】

段落ち面15の下部と本体ケース1との間に、本体ケース1の周面から段落ち面15へ向かって下り傾斜する逃げ面39を形成する(図2参照)。

【0017】

側部マスカラコーム16は、前記段落ち面15の幅方向中央に直線列状に設ける(図3参照)。

【0018】

端部側整形部12に、段落ち面15の上部に連続する周側面18aを形成する。側部マスカラコーム16の段落ち面15からの突出寸法H1を、周側面18aの段落ち面15からの突出寸法H5より大きく設定する。これにより、周側面18aが、側部マスカラコーム16の突き刺しを規制する防護体を兼ねるようにする。

20

【0019】

側部マスカラコーム16の櫛歯列の長さL3を、端部マスカラコーム23の櫛歯列の長さL4より大きく設定する。

【0020】

側部マスカラコーム16の櫛歯19の突出寸法H1を、端部マスカラコーム23の櫛歯34の突出寸法H3より大きく設定する(図5参照)。

【0021】

端部側整形部12の周側面18aを平坦に形成する。周側面18aに連続して端部マスカラコーム23を上向きに突設する。これにより、周側面18aと端部マスカラコーム23とが、側部マスカラコーム16の突き刺しを規制する防護体を兼ねるようにする。

30

【0022】

整形ヘッド2の周面一侧に側部マスカラコーム16を設け、周面他側に側部側整形部11を設ける。

【0023】

側部マスカラコーム16の櫛歯19の突出寸法H1を、側部側整形部11に設けた側部コーム14の櫛歯30の突出寸法H2より大きく設定する。

【0024】

側部マスカラコーム16の櫛歯19の突出寸法H1を、側部コーム14の櫛歯30の突出寸法H2の2倍を越える値に設定する。

40

【発明の効果】

【0025】

本発明においては、整形ヘッド2の突端の端部側整形部12に端部カール面21と、端部コーム22を設け、さらに、まつ毛に付着したマスカラを梳き取る端部マスカラコーム23を設けるようにした。このように、整形ヘッド2の突端に端部側整形部12を備えたまつ毛整形具によれば、整形ヘッド2を縦長に保持した状態で、まつ毛を端部側整形部12でカールできる。したがって、本体ケース1を握っている手が鏡越しに見る視線の邪魔になるのを防止して、カール作業を確実に、しかも容易に行なうことができる。

50

【0026】

また、まつ毛の前段梳き流し作業、およびまつ毛に付着したダマを梳き取ってまつ毛を仕上げる場合にも、端部マスカラコーム23を縦長に保持した状態で作業を行なえるので、上記のカール作業と同様に、本体ケース1を握っている手が鏡越しに見る視線の邪魔になるのを防止できる。したがって、まつ毛の前段梳き流し作業からダマの除去に至る一連の作業を確実に、しかも容易に行なうことができる。カールしたまつ毛にマスカラ液を塗布したのち、まつ毛に付着したダマを端部マスカラコーム23で梳き取って、まつ毛を仕上げるので、まつ毛整形具とは別に、専用のマスカラコームを用意する必要がない。さらに、毛密度が小さくて整形しにくい目頭や目尻部分の短いまつ毛を、端部側整形部12に設けた端部カール面21および端部マスカラコーム23で的確にしかも綿密にくせ付けできるので、マスカラ液の塗布を除く一連の作業を、まつ毛整形具のみで簡便に行なえる。加えて、まつ毛の化粧をより短い時間で行える。

10

【0027】

端部側整形部12は、まつ毛の前段梳き流し作業とカール処理、およびダマ処理に使用することができる。また、側部側整形部11に比べて全体のサイズが小さな端部側整形部12は、個々のまつ毛ごとにカール処理を行ない、あるいは個々のまつ毛に付着したマスカラを梳き取ることが可能であるので、カール処理やダマ処理などをきめ細やかに、しかも適確に行なうことができる。

【0028】

端部マスカラコーム23の櫛歯34と端部コーム22の櫛歯32の、梳き流し方向を互いに直交する向きに設定したまつ毛整形具によれば、両コーム22・23を明確に区別できるので、両コーム22・23が間違った使用法で利用されるのを防止できる。また、整形ヘッド2の突端の端部側整形部12に、端部コーム22と端部マスカラコーム23を集約配置するので、端部側整形部12をコンパクトにまとめることができ、構造が複雑化することも解消できる。

20

【0029】

端部マスカラコーム23の櫛歯列を、端部コーム22の櫛歯32と平行に設けると、まつ毛を端部カール面21でカールする際に、端部コーム22と端部マスカラコーム23とが協同してまつ毛を梳き流すことができる。つまり、端部マスカラコーム23を利用してまつ毛をカールする方向に梳き流すことができるので、その分だけ端部コーム22の櫛歯32の数を減らすことができ、端部側整形部12の構造をさらにコンパクト化できる。このように、コンパクト化された端部側整形部12は、目頭側や目尻側におけるまつ毛の前段梳き流し作業と、カール作業と、ダマの除去とをさらに適確に行なうことができ、したがって、まつ毛の化粧をより短い時間で行える。さらに、一連の作業において、まつ毛を視認するとき端部側整形部12が邪魔になるのをよく防止できる。

30

【0030】

端部カール面21の端部に端部マスカラコーム23を配置すると、例えば、端部マスカラコーム23によるダマの除去を、端部コーム22に邪魔されることもなく適確に行え、まつ毛整形具の使い勝手を向上できる。まつ毛から梳き取ったダマが、端部カール面21やヒーター8に付着するのを防止できるうえ、端部マスカラコーム23に付着したダマの除去を簡便に行える。

40

【0031】

端部マスカラコーム23の突出寸法H3を、端部コーム22の突出寸法H4と同じか、これより大きく設定すると、端部マスカラコーム23によるダマの除去を適確に行える。とくに、端部マスカラコーム23が、端部コーム22より大きく突出してある場合には、毛密度が小さく短い目頭や目尻部分のまつ毛、あるいは下まつ毛を、端部マスカラコーム23で1本ずつ確実に梳き流して、その形を整えることができる。

【0032】

端部コーム22を構成する櫛歯32の歯幅W2が、端部マスカラコーム23の櫛歯34の歯幅W1に比べて大きく設定してあると、端部マスカラコーム23が肌面に突き刺さる

50

うとするとき、端部コーム 22 で肌面を受止めることができる。したがって、端部マスカラコーム 23 が、端部コーム 22 より突出させてある場合であっても、端部マスカラコーム 23 が肌面に突き刺さるのを防いで、まつ毛整形具の安全性を確保し、ユーザーが傷付くのを防止できる。

【0033】

端部マスカラコーム 23 の櫛歯 34 の歯幅 W1 および隣接ピッチ P1 を、端部コーム 22 の櫛歯 32 の歯幅 W2 および隣接ピッチ P2 より小さく設定すると、毛密度が大きい部分のまつ毛を端部マスカラコーム 23 で一本ずつ適確に梳き流すことができる。したがって、毛密度が大きなまつ毛を、ユーザーの意図どおりに整えることができ、まつ毛に付着しているダマを確実に梳き取って、その仕上がり状態を向上できる。

10

【0034】

端部側整形部 12 の周側面 18a で、端部マスカラコーム 23 の基端部分に温度表示体 38 を設けると、端部マスカラコーム 23 でまつ毛の前段梳き流し作業を行うとき、温度表示体 38 をユーザーの顔面に正対させることができる。したがって、ユーザーは前段梳き流し作業を行いながら、温度表示体 38 の呈色状態を見て、端部カール面 21 が適温になっているか否かを確認できる。また、端部カール面 21 が加熱された状態であることを温度表示体 38 で知ることができるので、ユーザーの注意を喚起して、端部カール面 21 が不用意に肌面に押し付けられるような事故を未然に防止でき、まつ毛整形具の安全性をさらに向上できる。

【0035】

20

整形ヘッド 2 の周面一侧に設けた段落ち面 15 に側部マスカラコーム 16 を設けるまつ毛整形具によれば、側部マスカラコーム 16 を整形ヘッド 2 の上下方向に沿う広範囲にわたって縦長に形成できる。したがって、中央部分を含むまつ毛の大半の部分に付着しているダマを、側部マスカラコーム 16 で一気に梳き取ることができる。また、段落ち面 15 に側部マスカラコーム 16 を設けるので、その櫛歯 19 が整形ヘッド 2 の周面から大きく突出するのを防止でき、さらに段落ち面 15 に連続して設けられる横櫛ベース 18 で櫛歯 19 を保護して、落下などによる櫛歯 19 の破損を防止できる。

【0036】

本体ケース 1 の周面から段落ち面 15 へ向かって、下り傾斜する逃げ面 39 を形成すると、側部マスカラコーム 16 に隣接して逃げ面 39 に臨む大きな空間を確保できる。したがって、側部マスカラコーム 16 で前段梳き流し作業を行い、あるいはダマを除去する場合のユーザーの視界を大きくでき、さらに、先の空間を介してまつ毛の状態を明確に視認でき、まつ毛整形具の使い勝手を向上できる。

30

【0037】

側部マスカラコーム 16 は、前記段落ち面 15 の幅方向中央に直線列状に設けると、整形ヘッド 2 の前後周面で側部マスカラコーム 16 の櫛歯 19 を保護できる。例えば、まつ毛整形具が床面に落下するような場合に、整形ヘッド 2 の前後周面が床面に衝突することにより、側部マスカラコーム 16 が床面に衝突する機会を減少できる。したがって、他のコーム 14・22・23 に比べて長い側部マスカラコーム 16 の折損を、よく防止できる。

40

【0038】

側部マスカラコーム 16 の段落ち面 15 からの突出寸法 H1 を、周側面 18a の段落ち面 15 からの突出寸法 H5 より大きく設定すると、側部マスカラコーム 16 が肌面に突き刺さろうとするとき、周側面 18a で肌面を受止めることができる。したがって、側部マスカラコーム 16 が周側面 18a より突出させてある場合であっても、側部マスカラコーム 16 が肌面に突き刺さるのを周側面 18a で防いで、まつ毛整形具の安全性を確保し、ユーザーが傷付くのを防止できる。

【0039】

側部マスカラコーム 16 の櫛歯列の長さ L3 を、端部マスカラコーム 23 の櫛歯列の長さ L4 より大きく設定すると、各マスカラコーム 16・23 の用途を一見するだけで判別

50

できる。したがって、両マスカラコーム 16・23 を適宜使い分けることにより、長いまつ毛と短いまつ毛とを効果的に梳き流し、あるいは、長いまつ毛と短いまつ毛に付着したダマを効果的に梳き取ることができる。

【0040】

側部マスカラコーム 16 の櫛歯 19 の突出寸法 H1 を、端部マスカラコーム 23 の櫛歯 34 の突出寸法 H3 より大きく設定すると、各マスカラコーム 16・23 の用途をさらに確実に判別できる。また、長い櫛歯 19 で長いまつ毛を毛先まで梳き流すことができ、短い櫛歯 34 で短いまつ毛を適確に捕捉して梳き流すことができる。

【0041】

端部側整形部 12 の平坦な周側面 18a に連続して端部マスカラコーム 23 が上向きに突設してあると、側部マスカラコーム 16 が肌面に突き刺さろうとすると、周側面 18a と端部マスカラコーム 23 とが協同して肌面を受止めることができる。したがって、側部マスカラコーム 16 が周側面 18a より突出させてある場合であっても、側部マスカラコーム 16 が肌面に突き刺さるのを周側面 18a と端部マスカラコーム 23 とで防いで、まつ毛整形具の安全性を確保し、ユーザーが傷付くのを防止できる。

【0042】

整形ヘッド 2 の周面一侧に側部マスカラコーム 16 を設け、周面他側に側部側整形部 11 を設けると、整形ヘッド 2 の上下方向に沿う広範囲にわたって側部側整形部 11 を縦長に形成できる。したがって、長いまつ毛の殆どを側部側整形部 11 で一挙にカールでき、まつ毛の化粧をより短い時間で簡便に行える。

【0043】

側部マスカラコーム 16 の櫛歯 19 の突出寸法 H1 が、側部コーム 14 の櫛歯 30 の突出寸法 H2 より大きく設定してあると、側部マスカラコーム 16 によるまつ毛の前段梳き流し作業と、まつ毛に付着しているダマの除去とを一気に行うことができる。さらに、側部側整形部 11 でまつ毛をカールするときに、側部コーム 14 がまぶたに接触するのを解消でき、全体としてまつ毛整形具の使い勝手を向上できる。

【0044】

とくに、側部マスカラコーム 16 の櫛歯 19 の突出寸法 H1 を、側部コーム 14 の櫛歯 30 の突出寸法 H2 の 2 倍を越える値に設定する場合には、長いまつ毛の前段梳き流し作業と、まつ毛に付着しているダマの除去とをさらに適確に行うことができる。

【図面の簡単な説明】

【0045】

【図 1】本発明に係るまつ毛整形具の整形ヘッドの縦断正面図である。

【図 2】本発明に係るまつ毛整形具の正面図である。

【図 3】図 1 における A-A 線断面図である。

【図 4】本発明に係るまつ毛整形具の整形ヘッドの斜視図である。

【図 5】本発明に係る整形ヘッドの各部の寸法関係を示す正面図である。

【図 6】本発明に係る整形ヘッドの各部の寸法関係を示す側面図である。

【図 7】本発明に係る整形ヘッドによるカール作業例を示す説明図である。

【図 8】本発明に係る整形ヘッドによるダマ除去作業例を示す説明図である。

【図 9】本発明の別の実施例に係る整形ヘッド要部の正面図である。

【図 10】本発明のさらに別の実施例に係る整形ヘッド要部の正面図である。

【発明を実施するための形態】

【0046】

(実施例) 図 1 ないし図 8 は本発明に係るまつ毛整形具の実施例を示す。なお、この実施例における前後、左右、上下とは、図 2 および図 3 に示す交差矢印と、各矢印の近傍に表記した前後、左右、上下の表示に従う。図 2 においてまつ毛整形具は、グリップを兼ねる中空筒状の本体ケース 1 と、本体ケース 1 の上端に設けられる整形ヘッド 2 を備えている。本体ケース 1 の下端にはキャップ 3 がねじ込み装着してあり、キャップ 3 を本体ケース 1 から取り外した状態において、電池 4 をケース内部に出し入れできる。本体ケース 1

の前面には、電池 4 と後述するヒーター 8 との間の通電状態をオン・オフするスイッチノブ 5 が設けてある。

【0047】

整形ヘッド 2 は、左右に分割した状態で形成されるヘッドベース 6 と櫛枠 7 とで逆 L 字状に構成してあり、ヘッドベース 6 と同ベース 6 に外嵌装着される櫛枠 7 との間にヒーター 8 が逆 L 字状に挟み保持してある。図 3 に示すように整形ヘッド 2 は断面が D 字状に形成してあり、その右周側に側部側整形部 11 を設け、上端に端部側整形部 12 を設けている。

【0048】

両整形部 11・12 のうち、側部側整形部 11 は、主にまつ毛列の湾曲中央部分に沿って生えている長いまつ毛をカールするために設けてある。また、端部側整形部 12 は、主に目頭側や目尻側に生えている短いまつ毛、あるいは下まつ毛をカールするために設ける。ヒーター 8 は、側部側整形部 11 に臨んで配置される第 1 ヒーター 8 A と、端部側整形部 12 に臨んで配置される第 2 ヒーター 8 B とからなる。前後一対ずつ配置される両ヒーター 8 A・8 B は、端部側整形部 12 で U 字状に折り返えされる 1 本のヒーター線で構成してある。

【0049】

側部側整形部 11 には、主に長いまつ毛をカールするための側部カール面 13 と、カール時に主に長いまつ毛を梳くための側部コーム 14 が設けてある。また、側部側整形部 11 と対向する整形ヘッド 2 の左周側には、整形ヘッド 2 の左右中央へ向かって凹む段落ち面 15 を設けて、この段落ち面 15 に、長いまつ毛に付着したマスカラのダマを梳き取る側部マスカラコーム 16 が設けてある（図 6 参照）。図 4 に示すように、ヘッドベース 6 は、縦長の縦櫛ベース 17 と、縦櫛ベース 17 の上端から左向きに突設される横櫛ベース 18 とで逆 L 字状に構成してある。縦櫛ベース 17 の左側面が先の段落ち面 15 になっており、その前後幅方向の中央部分に側部マスカラコーム 16 を構成する櫛歯 19 が上下方向へ直線列状に形成してある（図 2 参照）。

【0050】

横櫛ベース 18 の上面側に設けられる端部側整形部 12 には、主に短いまつ毛をカールするための端部カール面 21 と、カール時に主に短いまつ毛を梳くための端部コーム 22 が設けてある。また、横櫛ベース 18 の左側の平坦な周側面 18 a の上縁から上方へ向かって、主に短いまつ毛に付着したマスカラのダマを梳き取る端部マスカラコーム 23 が設けてある。図 4 に示すように櫛枠 7 は、縦櫛枠 26 と、縦櫛枠 26 の上端から左向きに突設される横櫛枠 27 と、縦櫛枠 26 に設けた側部コーム 14 と、横櫛枠 27 に設けた端部コーム 22 を一体に備えている。縦櫛枠 26 と横櫛枠 27 の前後中央に設けた装填溝 28 に先のヒーター 8 が装填してある。縦櫛枠 26 の外側面が先の側部カール面 13 になっており、横櫛枠 27 の上端面が先の端部カール面 21 になっている。

【0051】

側部コーム 14 は、上下多段状に配置されて縦櫛枠 26 の前後壁を橋絡する部分円弧状の櫛歯 30 で構成してあり、各櫛歯 30 の内面には、縦櫛枠 26 の前後壁と協同してヒーター 8 を受止める受壁 31 が突設してある（図 3 参照）。同様に、端部コーム 22 は横櫛枠 27 の前後壁を橋絡する 2 個の部分円弧状の櫛歯 32 で構成してあり、各櫛歯 32 の内面には、横櫛枠 27 の前後壁と協同してヒーター 8 を受止める受壁 33 が突設してある（図 6 参照）。櫛枠 7 は、ヘッドベース 6 に接着固定してある。端部コーム 22 の端部カール面 21 からの突出寸法 H4 は、側部コーム 14 の側部カール面 13 からの突出寸法 H2 に比べて小さく設定してある。

【0052】

図 6 に示すように、端部マスカラコーム 23 は、横櫛ベース 18 の周側面 18 a に沿って上向きに突設した 5 個の櫛歯 34 で構成してある。このように、端部マスカラコーム 23 の櫛歯 34 の配列方向と、端部コーム 22 の櫛歯 32 の配列方向とを異ならせることにより、端部マスカラコーム 23 の梳き流し方向と、端部コーム 22 の梳き流し方向とを互

10

20

30

40

50

いに直交させることができる。また、端部マスカラコーム 2 3 の櫛歯列は、端部コーム 2 2 と平行に設けてあるので、端部マスカラコーム 2 3 が端部コーム 2 2 を兼ねて、これら両者 2 2 ・ 2 3 が共同してまつ毛を梳き流すことができる。

【0053】

端部マスカラコーム 2 3 の基端部分、より詳しくは端部側整形部 1 2 の周側面 1 8 a には円形の温度表示体 3 8 が設けてある。温度表示体 3 8 は可逆性の示温ラベルからなり、周側面 1 8 a の温度が設定温度に達すると、それまで黒色だったラベルの色が例えば茶色に変化して、側部側整形部 1 1 および端部側整形部 1 2 が使用に適した温度状態になっていることを表示する。

【0054】

側部マスカラコーム 1 6 は、まつ毛を梳き流す前段作業時と、マスカラ液をまつ毛に塗布したのちに使用するが、同コーム 1 6 の使い勝手を向上するために、段落ち面 1 5 の下部と本体ケース 1 との間に逃げ面 3 9 が形成してある。逃げ面 3 9 は、本体ケース 1 の周面から段落ち面 1 5 へ向かって下り傾斜する凹面状の湾曲面からなり、その半分が本体ケース 1 の側に、残る半分がヘッドベース 6 の側に形成してある。

【0055】

図 4 に側部側整形部 1 1 と端部側整形部 1 2 との関係寸法を示しており、さらに図 5 および図 6 に各カールコーム 1 4 ・ 2 2 および櫛歯 3 0 ・ 3 2 の寸法の対比と、各マスカラコーム 1 6 ・ 2 3 および櫛歯 1 9 ・ 3 4 の寸法の対比を示している。図 4 に示すように側部側整形部 1 1 の櫛歯列の長さ L_1 は、端部側整形部 1 2 の櫛歯列の長さ L_2 よりはるかに大きい ($L_1 \gg L_2$)。側部側整形部 1 1 の前後幅 B_1 は、端部側整形部 1 2 の前後幅 B_2 と等しい ($B_1 = B_2$)。このように、端部側整形部 1 2 の面積およびサイズは、側部側整形部 1 1 の面積およびサイズより十分に小さく設定してある。

【0056】

図 6 に示すように、側部マスカラコーム 1 6 の櫛歯列の上下長さ L_3 は、端部マスカラコーム 2 3 の櫛歯列の前後長さ L_4 よりはるかに大きい ($L_3 \gg L_4$)。さらに、図 5 に示すように、側部マスカラコーム 1 6 の櫛歯 1 9 の突出寸法 H_1 は、側部コーム 1 4 の櫛歯 3 0 の突出寸法 H_2 より大きく設定してあり ($H_1 > H_2$)、端部マスカラコーム 2 3 の櫛歯 3 4 の突出寸法 H_3 より大きく設定してある ($H_1 > H_3$)。この実施例では側部マスカラコーム 1 6 の櫛歯 1 9 の突出寸法 H_1 を、側部コーム 1 4 の櫛歯 3 0 の突出寸法 H_2 の 2 倍強の値に設定した。

【0057】

また、端部マスカラコーム 2 3 の端部カール面 2 1 からの突出寸法 H_3 (図 5 参照) は、端部コーム 2 2 の端部カール面 2 1 からの突出寸法 H_4 より大きく設定してある ($H_3 > H_4$)。このように、端部マスカラコーム 2 3 に隣接して端部コーム 2 2 を設けると、端部コーム 2 2 の円弧周面が肌面に接当して、端部マスカラコーム 2 3 の先端が肌面に突き刺さろうとするのを端部コーム 2 2 で規制できる。つまり、端部コーム 2 2 は、端部マスカラコーム 2 3 が肌面に突き刺さるのを規制する防護体として機能できる。また、端部コーム 2 2 と端部マスカラコーム 2 3 を隣接配置するので、各コーム 2 2 ・ 2 3 の向きを変更するだけでカール処理とダマ処理を行なえ、端部側整形部 1 2 によるまつ毛の整形を迅速かつ容易に行なって、まつげ整形具の使い勝手を向上できる。

【0058】

図 5 および図 6 において、端部マスカラコーム 2 3 を構成する櫛歯 3 4 の歯幅 W_1 および隣接ピッチ P_1 は、端部コーム 2 2 を構成する櫛歯 3 2 の歯幅 W_2 および隣接ピッチ P_2 より小さく設定してある ($W_1 < W_2$)、($P_1 < P_2$)。また、側部コーム 1 4 を構成する櫛歯 3 0 の歯幅 W_3 および隣接ピッチ P_3 は、端部コーム 2 2 を構成する櫛歯 3 2 の歯幅 W_2 および隣接ピッチ P_2 と同じである ($W_3 = W_2$)、($P_3 = P_2$)。さらに、側部マスカラコーム 1 6 を構成する櫛歯 1 9 の歯幅 W_4 および隣接ピッチ P_4 は、側部コーム 1 4 を構成する櫛歯 3 0 の歯幅 W_3 および隣接ピッチ P_3 より小さく設定してある ($W_4 < W_3$)、($P_4 < P_3$)。因みに、側部マスカラコーム 1 6 の櫛歯 1 9 の歯幅 W

4 および隣接ピッチ P 4 は、端部マスカラコーム 2 3 の櫛歯 3 4 の歯幅 W 1 および隣接ピッチ P 1 にほぼ等しい。

【0059】

側部マスカラコーム 1 6 の段落ち面 1 5 からの突出寸法 H 1 は、段落ち面 1 5 の上部に連続する周側面 1 8 a の段落ち面 1 5 からの突出寸法 H 5 より大きく設定してある ($H 1 > H 5$)。このように、側部マスカラコーム 1 6 の近傍に、端部側整形部 1 2 の周側面 1 8 a が設けてあると、周側面 1 8 a と端部マスカラコーム 2 3 とが肌面に接当して、側部マスカラコーム 1 6 の先端が肌面に突き刺さろうとするのを規制できる。つまり、周側面 1 8 a および端部マスカラコーム 2 3 は、側部マスカラコーム 1 6 が肌面に突き刺さるのを規制する防護体として機能できる。

10

【0060】

上記構成のまつ毛整形具は、まつ毛を梳き流す前段作業と、まつ毛をカールする作業と、マスカラ液のダマを除去する作業とに使用することができる。まつ毛を梳き流す前段作業においては、側部マスカラコーム 1 6 および端部マスカラコーム 2 3 を使用して、絡み合ったまつ毛を梳き流し、まつ毛全体の形を整える。

【0061】

まつ毛をカールする場合には、片手で本体ケース 1 を握り、スイッチノブ 5 をオン状態にして第 1・第 2 の両ヒーター 8 A・8 B を加熱する。次ぎに、側部側整形部 1 1 が上向きになる状態でまつ毛整形具を概ね水平に保持し、まつ毛の湾曲中央部分を櫛歯 3 0 でまつ毛を梳き分けながら側部カール面 1 3 をあてがう。この状態で図 7 (a) に示すようにまつ毛をヒーター 8 で加熱しながら上向きにすくいあげ、さらに、側部カール面 1 3 を眉毛の側へ向かって回転させて上向きにカールする。この状態を保持してカール部分を加熱しながら、整形ヘッド 2 をさらに上向きに押し上げることにより、まつ毛の毛先まで確実にカールできる。このように、まつ毛をカールさせるときは、まつ毛を側部コーム 1 4 の櫛歯 3 0 で捕捉して、まつ毛が側部カール面 1 3 に沿って横移動するのを規制できるので、隣接する櫛歯 3 0 の間に捕捉されたまつ毛の一群を適正にカールできる。

20

【0062】

目頭および目尻部分は、図 7 (b) に示すように端部カール面 2 1 が上向きになる状態でまつ毛整形具を斜めに保持し、目頭および目尻部分に位置するまつ毛の基端寄りに端部カール面 2 1 をあてがう。さらに、まつ毛をヒーター 8 で加熱しながら斜め上向きにすくいあげ、この状態を保持してカール部分を加熱する。このとき、端部カール面 2 1 の左右長さは、側部カール面 1 3 の上下長さに比べて十分に小さいので、短くしかも毛密度が小さなまつ毛を幅狭の端部カール面 2 1 で的確に捕捉して適確にカールできる。このとき、端部コーム 2 2 の櫛歯 3 2 は、まつ毛が端部カール面 2 1 に沿って横移動するのを規制できる。片方の目のまつ毛のカールが終了したら、本体ケース 1 を逆の手に持ち変えて左右逆向きにした状態で、他方の目のまつ毛をカールする。

30

【0063】

下まつ毛をカールする場合には、端部カール面 2 1 が下向きになる状態でまつ毛整形具を斜めに保持する。次にまつ毛の基端寄りに端部カール面 2 1 をあてがって、まつ毛をヒーター 8 で加熱しながら下向きにすくい下ろし、この状態を保持してカール部分を加熱する。この場合にも、上まつ毛に比べて短くしかも毛密度が小さな下まつ毛を、幅狭の端部カール面 2 1 で的確に捕捉して適確にカールできる。

40

【0064】

マスカラ液のダマを除去する場合には、図 8 (a) に示すように、マスカラ液が塗布されたまつ毛の湾曲中央部分を側部マスカラコーム 1 6 で数回梳き流して、マスカラ液のダマを除去し、まつ毛のカール形状を整える。さらに、図 8 (b) に示すように、目頭および目尻の短いまつ毛部分を端部マスカラコーム 2 3 で複数回梳き流してマスカラ液のダマを除去し、まつ毛のカール形状を整える。同様にして、下まつ毛に付着したマスカラ液のダマを、端部マスカラコーム 2 3 で梳き流して除去し、まつ毛のカール形状を整えることができる。

50

【0065】

以上のように、端部マスカラコーム23を備えたまつ毛整形具によれば、まつ毛を化粧する過程で、まつ毛の前段梳き流し作業を端部マスカラコーム23で行ったのち、まつ毛をヒーター8で加熱しながら端部カール面21でカールすることができる。また、カールしたまつ毛にマスカラ液を塗布したのち、まつ毛に付着したダマを端部マスカラコーム23で梳き取って、まつ毛を仕上げるできるので、まつ毛整形具とは別に専用のマスカラコームを用意する必要がない。

【0066】

図9は、まつ毛整形具の別の実施例を示す。そこでは、横櫛ベース18の周側面18aの前後中央に端部マスカラコーム23を設けた。この場合の端部マスカラコーム23の櫛歯34は、上向きに突出する状態で左右方向に3個設けた。この場合にも、端部マスカラコーム23の櫛歯34と端部コーム22の櫛歯32との関係寸法は、先の実施例と同様に($W1 < W2$)、($P1 < P2$)を満足できるようにした。他は先に説明した実施例と同じであるので、同じ部材に同じ符号を付して、その説明を省略する。図10の説明においても同じとする。

【0067】

図10は、まつ毛整形具のさらに別の実施例を示す。そこでは、横櫛ベース18の周側面18aの上縁に沿って、端部マスカラコーム23を横向きに突出する状態で設けた。この場合の端部マスカラコーム23の櫛歯34は、横向きに突出する状態で前後方向に5個設けた。このように、端部マスカラコーム23は、端部コーム22の配列構造の違いに応じて、周側面18aの任意位置に形成することができる。

【0068】

上記のまつ毛整形具は、以下の態様で実施することができる。

グリップを兼ねる本体ケース1の一端に整形ヘッド2を有し、

整形ヘッド2の対向周面の一侧に側部側整形部11と、まつ毛を加熱するヒーター8が配置され、対向周面の他側にまつ毛に付着したマスカラを梳き取る側部マスカラコーム16が設けてあるまつ毛整形具。

【0069】

側部マスカラコーム16の櫛歯19の突出寸法H1が、側部側整形部11に設けた側部コーム14の櫛歯30の突出寸法H2より大きく設定してあるまつ毛整形具。

【0070】

側部マスカラコーム16の櫛歯19の突出寸法H1が、側部コーム14の櫛歯30の突出寸法H2の2倍を越える値に設定してあるまつ毛整形具。

【0071】

上記のまつ毛整形具によれば、整形ヘッド2の周面一侧に設けた側部側整形部11で、主にまつ毛列の湾曲中央部分に沿って生えている長くて密度の高いまつ毛をカールでき、周面他側に設けた側部マスカラコーム16でマスカラ液のダマを梳き取ることができる。詳しくは、マスカラ液を介してくっ付きあったまつ毛を側部マスカラコーム16で梳き流して単毛状に分化し、同時にダマを梳き取ってまつ毛をより自然な感じに仕上げることができる。

【0072】

側部マスカラコーム16の櫛歯19の突出寸法H1を、側部コーム14の櫛歯30の突出寸法H2より大きく設定すると、突出寸法H1の大きな側部マスカラコーム16でまつ毛を確実に捕捉して梳き流すことができる。したがって、まつ毛をカールする前にまつ毛を梳き流す前段作業を適確に行えるのはもちろん、くっ付きあったまつ毛の分化と、まつ毛に付着しているダマの除去とを適確に行える。とくに、櫛歯19の突出寸法H1が、櫛歯30の突出寸法H2の2倍を越える値に設定してある場合には、まつ毛をカールする前の前段梳き流し作業と、マスカラ液を塗布した後のダマの除去などをさらに確実に行うことができる。

【0073】

上記の実施例以外に、第1ヒーター8Aと第2ヒーター8Bとは、スイッチノブ5を切り換え操作して個別に独立して加熱することができる。上記の実施例におけるヒーター8は、発熱面が剥き出しになっているが、金属製あるいはプラスチック製のプレートでヒーター8の外面を覆うことができる。側部コーム14、端部コーム22、側部マスカラコーム16、端部マスカラコーム23は、それぞれ独立した部品として構成して、整形ヘッド2に対して着脱できる構造を採ることができる。上記の実施例では、端部コーム22の橢歯32を側部カール面13と平行に設けたが、橢歯32は側部カール面13と直交する状態で設けることができる。整形ヘッド2には、側部側整形部11と端部側整形部12のうち、いずれか一方が設けてあってもよい。

【符号の説明】

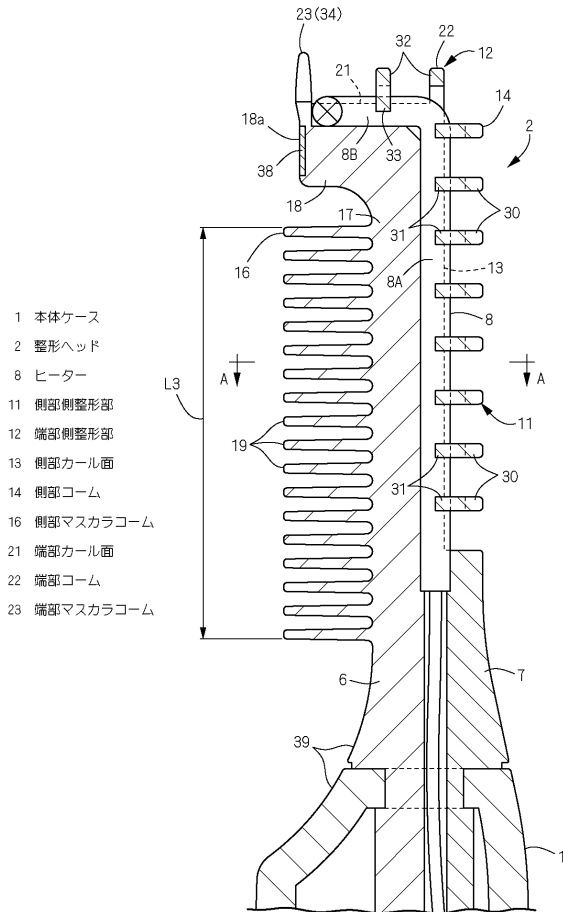
10

【0074】

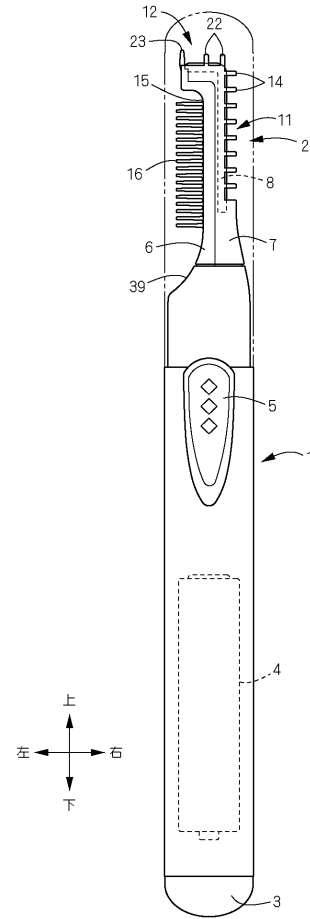
- 1 本体ケース
- 2 整形ヘッド
- 6 ヘッドベース
- 7 橢杵
- 8 ヒーター
- 11 側部側整形部
- 12 端部側整形部
- 13 側部カール面
- 14 側部コーム
- 15 段落ち面
- 16 側部マスカラコーム
- 19 側部マスカラコームの橢歯
- 21 端部カール面
- 22 端部コーム
- 23 端部マスカラコーム
- 30 側部コームの橢歯
- 32 端部コームの橢歯
- 34 端部マスカラコームの橢歯

20

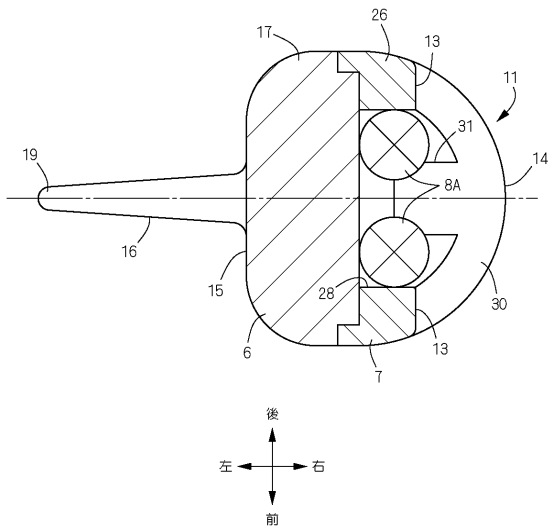
【図 1】



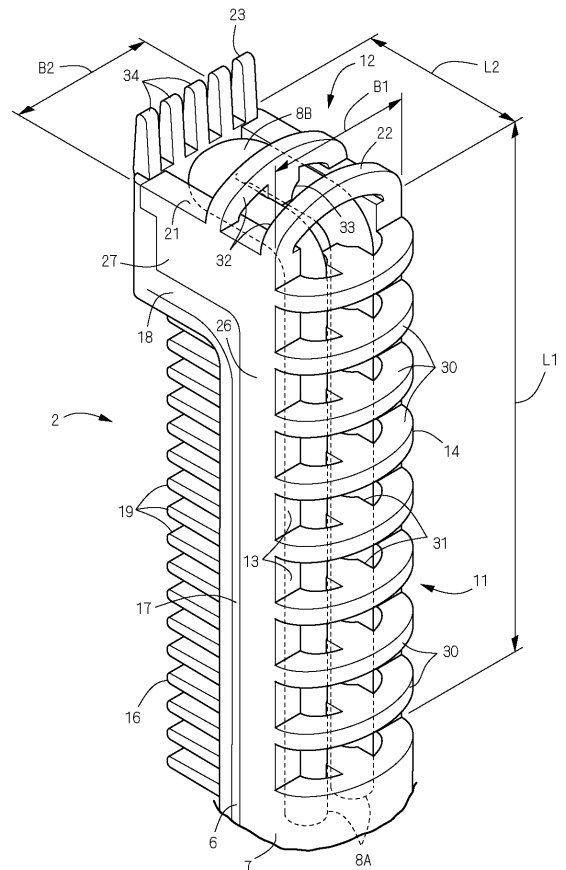
【図 2】



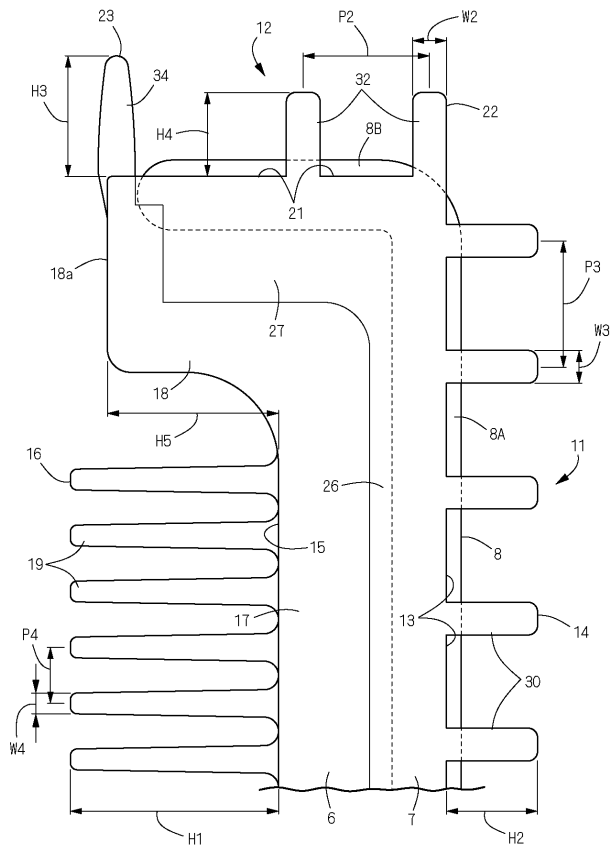
【図 3】



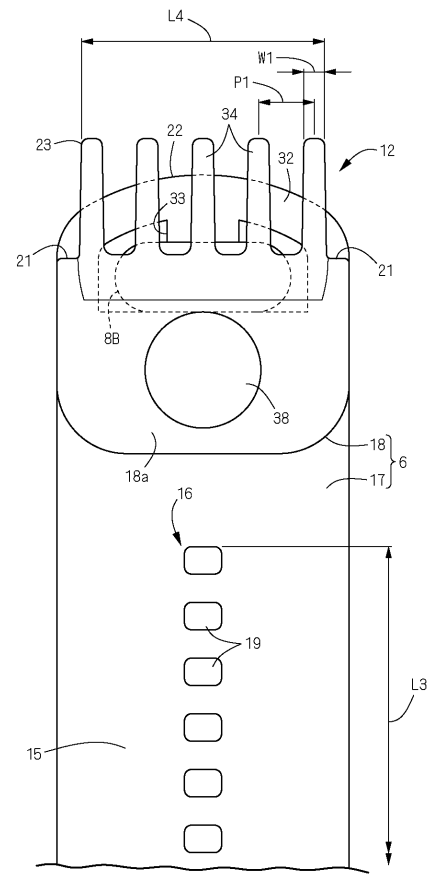
【図 4】



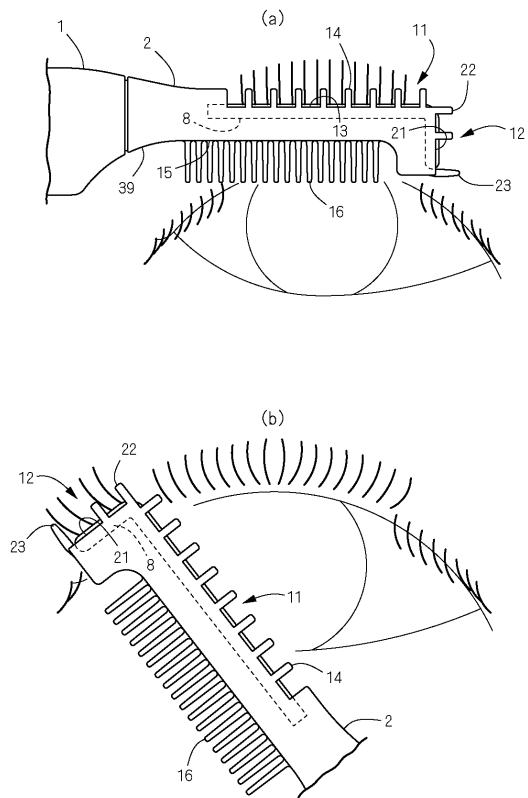
【図 5】



【図 6】



【図 7】



【図 8】

